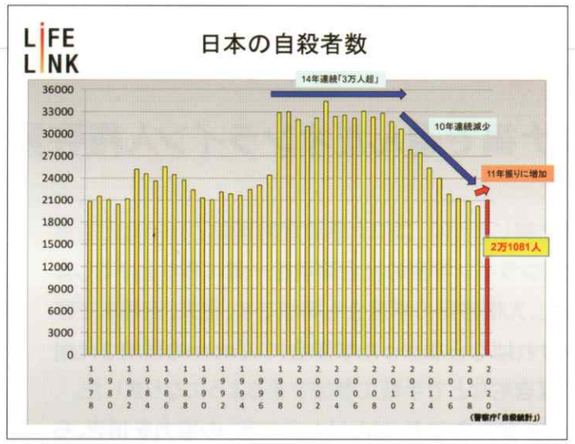
みのお市民人権フォーラムが無事開催、延べ500人超が全体会に参加

昨年延期となり、今年こそは！との思いで実行委員会が始まりました。回を重ねていく中、まん延防止措置・緊急事態宣言が発令され、安全を第一に「全体会のみオンライン」の開催に決定しました。オンラインのスキルが少なく問題の続出でしたが、諦めない気持ちと、多くの関係者・関係団体のサポート、そして講師の清水康之さんのご協力のおかげで、試行錯誤を経て実現しました。後日のアンケートでも時間や場所に縛られなく参加しやすい等、評価の良い結果となりました。視聴期間は約１か月、延べ500人超の方の視聴がありました。

記念講演では、コロナ禍で自殺者が増加している今だからこそ、必要な自殺対策についてお話しいただきました。自殺に追い込まれる場合、平均４つの悩みや課題を抱え、複合的に連鎖していること。自殺が起きる要因の一つとして、海外に比べ、日本は子どもの頃から自己肯定感が低く、それが若年層や女性の自死につながりやすくなっていることなど、具体的なデータやNHK報道ディレクター時代の経験を交え、分かりやすく実情を語って頂きました。年間自殺者数3万人を東京マラソンの走者３万人に置換えた動画の衝撃！箕面市における自殺者数！身近に起こっている問題だと愕然としました。当事者の苦しみ、また残された家族も苦しい思いの内にあり、深い悲しみは続きます。

自殺をなくすためにはどうすればいいのか？清水さんは「生きる支援を総合的に行うこと」とお話しされました。自分を否定せず、また他者も大事にできるといった学校や家庭での取組み。困った時に頼れる場所、胸の内を出せる場所が身近にあること。生きることの阻害要因をなくすとともに、促進要因を増やすことなどが大切です。行政や地域を巻き込んで、自身を受け入れてもらえる懐の深い、取りこぼしのない環境づくり（生き心地の良い社会）が必要ではないかと思います。

次回の人権フォーラムがどのような形になるのか未知数ですが、「ひと」を思い、今日より明日、少しでも生きやすい未来をつなぐきっかけになればと思います。



「いっさいの差別を許さない」のスローガンのもとに、初めてオンラインで開催。手話通訳や要約筆記も工夫しました。

「コロナ禍のジェンダー」講演会をオンライン開催

令和2年初頭から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の生活に大きな影響をもたらしました。とりわけ長期に及ぶ行動自粛やスティホームは、家庭でケア労働を担う女性に重くのしかかり、ドメスティックバイオレンス（DV）や虐待の被害も増加しています。雇用の場では、非正規や低賃金で働くこの人たちが深刻な影響をうけ、コロナ禍で働く女性が直面している困難がより一層表面化しました。

非常時には平常時の問題がより激しく現れます。この2年間のコロナ禍で変わった私たちの日常生活や社会に浮かび上がってきた問題について、2021年12月5日、人権啓発推進協議会主催で加藤伊都子さん（フェミニストカウンセリング堺）を講師に「コロナ禍でのジェンダー」をテーマに講演会を開催しました。当日は38人の市民にオンラインで参加いただきました。

加藤さんは、これまでの阪神淡路、東北、熊本と相次いでおきた震災の中で明らかになった女性に対するDVや性被害の現状やそれらに対する支援の状況などをふまえ、今回のコロナ禍における女性の仕事や家庭での役割、自殺の増加、暴力被害などの特徴を、データに基づきお話しくださいました。

女性がジェンダーによって担ってきたケア役割をそれぞれが自覚し、コロナ禍で訪れた新しい生活様式を取り入れて、未来への希望を持って、がまんをしないで、それぞれの立ち位置から声を上げて変えていくことができる、と参加者にコロナ禍を乗り越えていく元気と勇気を与えてくれました。

（男女協働参画啓発研究部会　門田加奈）